

9 月	豊川 愛護モニター報告	モニター区間	豊川：左右岸 6.2km～17.8km 管轄出張所：豊川流域治水出張所
実施日		実施区間	吉田大橋～賀茂橋

～ツルボ～

最初に見つけたのは牛川の渡しの大村側の堤防の土手。群生して花を咲かせている姿が目を引きつける。近寄るとハナバチの羽音がとてもにぎやかで、菜の花畑のようだ。それまで見たことがなかったし、サイクリスト仲間も初めて見る花だと言っていた。



ところが、注意して見ていると、このツルボ、堤防のいたるところに生えている。草丈がそんなに高くない上に、花の色が淡いピンク色であるツルボは、草丈が高い他の草の中に生えていると目立たないだけだった。やっぱり、人は見ようとしのないものしか見えないものなのだ。

ところで、ツルボには「参内傘」というなかなか優雅な別名がある。公家が宮中に参内する際に使った長い傘を閉じたところに似ていることからつけられた名称だそうだ。ほんまかいなと思わないでもないが、かなり古くから愛でられていたのは確かなようだ。

ツルボは9月初旬、暑い夏も終わったなあと思う時期に花の盛りを迎える。（さすがに今年は最高気温が30度をなかなか下回らない時期に花が終わってしまったが。）しかし、季節の変わり目を象徴する花としてももう少し注目されてもいいのではないだろうか。

～ワレモコウ～

目立たない花なのだが、変わった花だなと思って調べて見たらワレモコウだとわかった。

え、これがワレモコウ？ ワレモコウといえば、高原で咲いている高山植物の一種、というイメージがあったからだ。そんな草が豊川の堤防に生えているとは驚きだった。しかし、ワレモコウは人の手が定期的に入る茅場に生える草（これはツルボも同じ）だそうで、それならば堤防の土手に生えていてもおかしくない。やはり、堤防の土手は茅場植物のサンクチュアリなのだ。



ワレモコウの名の由来は諸説あるのだが、一般的には「吾木香」、すなわち「吾」＝我が国にある「木香」＝芳香があるインド産のキク科の植物というのがその名の由来とされている。平安時代の文学作品にも登場していて、なかなか立派な経歴の持ち主なのである。

他の草に紛れて、細い茎の先に小さい地味な花をつけているだけだし、そもそもそんなに個体数が多いないので、なかなか見つけることは難しい。ただ、花期は長く、9月から10月にかけて一ヶ月以上咲いているので、豊川右岸、北部地区市民館から牛川の渡しあたりを通る時に探してみたい。